

「ふたりユースケ」

自分が自分らしく生きるために

滝沢市立鶴飼小学校 六年

柿崎 千歳 かきやまき ちとせ

お父さんの仕事の都合で上須留目町に引越してきた小川ユースケは、町中の人から、かつて神童とよばれた大川ユースケの生まれ変わりと言われる。みんなにちやほやされて気分が良かったのもひと月余りで、ユースケが何か言ったりやったりするたびに、「ユースケさんはそんなこと言わなかっただ」などと

1

言って、できないとばかりにするようになった。

2

私だって、神童とか、希望の星の生まれ変わりと言われたら、内心うれしい。できる人だと思われている事だからだ。でも、似ているだけでそう思われるのは違うと思う。町の人も、ユースケを生まれ変わりだと一本当に信じたのだろうか。町に勢いを取り戻すきっかけが欲しかっただけなんじゃないか。そんな大人の都合で生まれ変わりにさせられたユースケが、かわいそうになっってきた。

大人は自分の理想を子どもに押しつける。やればできる子と言うけれど、そんなにやりたきゃ自分でやればと叫びたくなる事もある。理想通りになんてなれっこない。期待に応えられなかった時は、できなかつた自分に、心がズーンと沈んでしまふんだ。

でも、期待されるのは私に才能があると信じてもらっているという事だから、期待に応えたい、頑張りたいという気持ちになる自分もいる。私は、習い事で先生やコーチから期

待されてもプレッシャーは感じない。誰よりも私自身が上手になりたい、出来るようになっていたいと思っっているからだ。自分の思いと周りの期待が一致して、初めて期待を力に変えることができるのだ。ユースケも、小川ユースケとして期待されていたなら、違っていたかもしれない。

ユースケは、周りの期待を背負い、大川ユースケになることを選んだ。励ましが重荷になり、何もかもが嫌になつた時、頑張るの

もいけれど、やめる勇氣も必要だよーとい
う谷川ミキさんの言葉が頭によぎり、一瞬大
川ユースケになるのをやめようとした。しか
し、周りの人の事を考え、みんなの期待に応
えることを選んだ。たくさんの期待を背負っ
ていると感じた分、やめる事が難しくなっ
ていくのだと思う。でも、自分らしさをきせい
にしてまで生きていても、もう自分じゃない
と思う。誰かのために生きると聞くと、こ
いけれど、実はきゅうくつなんじゃないかな。

大川ユースケになることをやめる決心をし
た時、ゴーストになった大川ユースケから真
相が明かされた。そして、川の流れるように
自分の思い通りに自由に生きるとメッセー
ジを残して消えていった。

やめる勇氣。難しいけれど、私にもいつか
決断する時が来るかもしれない。でも、楽を
したいからではなく、ユースケのように、自
分が自分らしく生きるのに必要な勇氣だとい
うことを忘れずに決断したい。